

5 学校・家庭・地域社会の連携の推進

(1) 地域人材の活用

学校・地域が連携協力して、地域ぐるみで子どもを育てるため、地域の人材を積極的に取り入れ、地域に開かれた学校づくりを推進するとともに、地域の実情に応じた特色ある教育活動を展開する。

■ 学校支援ボランティアの活用

地域と協働した学校づくりを進めるため、地域の人々が様々な分野で学校と関わり、学校を支援する学校支援ボランティア制度を、平成12年度から開始し活動を展開している。

平成16年度からは、各学校が必要とするボランティアを校区の方々から募集・登録する新たな制度を構築し、地域人材を学校支援ボランティアとして活用することで、特色ある教育活動及び地域に開かれた学校づくりを推進している。また総合的な学習の時間に学校支援ボランティアをゲストティーチャーとして招き、子どもたちの生きる知識、技能及び文化を伝えている。

平成18年度からは、地域に開かれた特色ある幼稚園づくりが推進されるよう、制度の対象を市立幼稚園にも広げた。平成20年度からは機構改革により、幼稚園分は健康福祉子ども局保育幼稚園課で行っている。



学校支援ボランティア活動延べ人数

平成21年度 29,134人 (7,137人)
 平成22年度 33,372人 (10,037人)
 平成23年度 34,716人 (9,858人)
 平成24年度 35,826人 (11,904人)
 平成25年度 37,333人 (11,725人)

※ () 内は総合的な学習の時間における活用延べ人数

(2) 学校評議員制度の推進

学校(園)が地域の信頼に応えながら、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進するため、校(園)長が学校(園)運営に関し、学校評議員の方々を通じて、学校外から広く意見を聴き、保護者や地域住民等の意見を把握、反映し、連携協力して、学校運営や教育活動等を行っている。

■ 学校評議員の設置状況 ※平成26年6月1日現在

平成13年度から試行的に導入し、平成15年度からは全小中高校に拡充し、平成16年度には、全幼稚園にも導入した。

○ 平成26年度委嘱者数 692人(1校(園)平均4.7人)

(内訳)

・性別 男性 386人(55.8%)、女性 306人(44.2%)

・年齢

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
人数	0人	0人	18人	155人	182人	216人	119人	2人	692人
比率	0.0%	0.0%	2.6%	22.4%	26.3%	31.2%	17.2%	0.3%	

・職種等

	保護者	自治会等 関係者	企 業 関係者	社会福祉施設 ・団体関係者	社会教育 団体関係者	学識経験者	その他	合 計
人 数	51 人	127 人	12 人	149 人	43 人	33 人	277 人	692 人
比 率	7.4%	18.4%	1.7%	21.5%	6.2%	4.8%	40.0%	

(3) 学校教育活動の公開

地域に開かれた、地域と共に歩む学校づくりを推進するために、学校の教育方針や教育活動を積極的に公開する。

■ 学校評価

○ 学校評価の趣旨

- ・学校評価は、学校の実態や課題を明らかにし、学校運営の改善を図るためのものである。学校は、教育目標をもとに具体的な手だてや指標を示した学校経営・運営ビジョンを掲げ、学校が自らの取組みを評価し改善につなげるための、独自性のある評価項目を設定する。また、教育委員会は、各学校の学校評価をより効果的に活用することによって、学校・園の自主・自立的経営の推進につなげ、更なる熊本市立の学校・園の質の向上を図る。
- ・熊本市教育振興基本計画実施計画を効果的に進めるためには、施策の達成状況である成果を客観的に検証し、そこで明らかになった結果をもとに、計画の改善を図ることが必要である。実施計画に基づいた学校評価（共通項目）の結果の整理・分析を教育委員会が効率的に行い、結果を効果的に活用する。

○ 具体的な取組

- ・平成17年度に「熊本市の学校評価」を作成し、平成18年度から全小中学校で実施した。さらに、平成20年度には、市立幼稚園全園においても共通の評価項目を作成し、学校評価を実施した。
- ・各学校（園）の評価活動については、次の①～③の流れで行う。
保護者、児童生徒、教職員によるアンケートをもとに学校が自己評価を行う。
自己評価の結果をもとに学校評議員が学校関係者評価を行う。
自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえて、各学校が学校経営や諸教育活動の改善を行う。また、評価結果の効果的な公表を行い、開かれた学校づくりを進める。

○ 評価項目

小中学校	<input type="checkbox"/> 道徳・心の教育の充実 <input type="checkbox"/> 学校の支援体制 <input type="checkbox"/> 友達への思いやり <input type="checkbox"/> 授業力向上 <input type="checkbox"/> 施設・設備の安全管理 <input type="checkbox"/> 教育方針・目標の理解	<input type="checkbox"/> いじめや問題への対応 <input type="checkbox"/> 一人一人の児童生徒の尊重 <input type="checkbox"/> 意欲的な学習態度 <input type="checkbox"/> 児童生徒理解 <input type="checkbox"/> 安全と事故防止 <input type="checkbox"/> 家庭や地域との連携協力	<input type="checkbox"/> ICT活用 <input type="checkbox"/> 健康づくり
幼稚園	<input type="checkbox"/> 道徳・心の教育の充実 <input type="checkbox"/> 一人一人の園児の尊重 <input type="checkbox"/> 意欲的な活動 <input type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 教育方針・目標の理解	<input type="checkbox"/> 幼稚園の支援体制 <input type="checkbox"/> 友達への思いやり <input type="checkbox"/> 遊びや生活の充実 <input type="checkbox"/> 施設・設備の安全管理 <input type="checkbox"/> 家庭や地域との連携協力	<input type="checkbox"/> 児童生徒理解 <input type="checkbox"/> 安全と事故防止

■ 教育広報誌の発行

○ 「with you ウイズ・ユー」の作成

平成15年度から、教育委員会の取り組みや子どもたちの体験活動に関する情報を広く周知するため、教育広報誌として年2回発行し、市立幼稚園の園児及び小中学校の児童生徒をもつ全家庭、公民館等に配布している。

(4) 幼・保、小、中、高の連携の推進

協調性や思いやりの心を育むとともに、教育内容や児童生徒の相互理解を深めるために、学校・園間の連携や交流を推進する。

■ 「幼小中連携の日」における交流

同一校区内の幼稚園・保育所・小学校・中学校がそれぞれの教育活動や地域内の子どもたちの実情について理解を深める場として、平成11年度から学期に1回「幼小中連携の日」を設定し、学校（園）間の連携を推進している。

各学校（園）において、教員の相互授業参観や交換授業、情報交換会、研修会、子ども同士の交流活動、就学前幼児の小学校体験入学など、様々な取組みを実施している。

平成26年度連携の日 1学期：6月4日 2学期：各校設定 3学期：1月14日